

公益財団法人

宮城県国際化協会

MIYAGI INTERNATIONAL ASSOCIATION

倶楽部

MIA

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

巻頭インタビュー①

外国ルーツの 子どもに 寄り添い20年

外国人の子ども・サポートの会 設立20周年を迎えて

外国ルーツの子どもを対象に課外の日本語や教科の学習支援を行っているボランティア団体「外国人の子ども・サポートの会」(以下「サポートの会」と略します)は設立20周年を迎え、延べ750人ほどの子どもたちを支援してきました。記念事業として2024年12月に「高校生と先輩のお話を聞こう」が開催されました。サポートの会の支援を受けながら、高校、大学へと進学した「先輩」たち5人が自身の体験を語りました。

○李佳暢さん(中国出身・高校3年生)

13歳で来日し、中学校の1年生に転入しましたが、最初の1年ぐらいは周りが何を言っているのか全く分からず、友だちもできず、毎日ストレスがたまって週に3、4回は泣いていました。まだ5年前のことなので、いま思い出しても苦しくなります。2年生になって少しずつ聞き取れるようになり、ノートもとれるようになりましたが、次々と分からないことばが出てきたので、休み時間を使ってそれをまとめたりしました。高校に入り、たくさん友だちができ、自分が困ったときに助けてくれるようになりました。つらいときもたくさんありましたが、頑張れば良い自分になれると信じて乗り越えてきました。来春から東京の私立大学に進学します。

○サンスクリティ バンダリさん(ネパール出身・高校2年生)

中学校2年生のときに日本に来ました。中学校に転入し、運動部にも入りましたが、日本語が分からず友だちも作れなかったのので、辞めました。日本語を勉強しながら、得意な英語を受験に活かすために英検の勉強も頑張りました。おかげで志望した高校に入ることができました。高校では、自分から積極的に声をかけ、すぐに友だちができました。大学進学を目指しています。ボランティア活動にも取り組んでいて、今はフードバンク仙台で活動しています。



自身の経験を語る5人の先輩たち(左から李佳暢さん、サンスクリティ バンダリさん、レ マイ チュックさん、ドゥワディ アバさん、ドゥワディ アバスさん)

○レ マイ チュックさん(ベトナム出身・高校2年生)

3年前に日本に来ました。すでにベトナムの中学を卒業していたので、日本の中学校には入らず、MIA日本語講座で日本語を勉強し、サポートの会に受験勉強を手伝ってもらいました。私立高校の調理科に入学しました。高校では「そば部」に入り、今年の夏にはそば打ちの全国大会にも出場しました。卒業までに調理師免許とそば打ちの二段を取りたいです。京都に和食を勉強しにいきたい思いもありますし、栄養士の資格にも興味があります。自分が好きな調理のスキルを活かしてベトナムで和食を教えたりできればいいなと思っています。

○ドゥワディ アバさん(ネパール出身・管理栄養士)

来日は小学校3年生のときでした。最初は日本語が全然できなかったのので友だちができず、図書室で本ばかり読んでいました。日本語ができるようになるにつれて友だちもでき、会話は上達してきましたが、勉強は小中高を通じてずっと苦手で嫌いでした。でも、大学生のときに管理栄養士の資格がどうしても取りたくて、これまででいちばん頑張って勉強し、合格することができました。今は仙台市内の病院で栄養指導をしています。

○ドゥワディ アバスさん(ネパール出身・山形大学卒業)

日本に来てすぐに小学校に入学しました。両親も日本の入学式のことをよく分かっておらず、周りの子はスーツを着ているのに、わたしだけ普段着で出席しました。日本語ができなかったのにクラスメイトがやさしくしてくれて、遊びにも混ぜてくれました。2年生になって日本語ができるようになると、「空気が読めない」という新たな壁にぶつかりました。周囲との距離の取り方が分からず、居心地の悪い思いをたびたびしましたが、遊びを通じて接し方を少しずつ吸収し、いつの日か克服できていました。去年夏に大学を卒業し、来春から県外に就職します。留学経験なども活かして、海外営業の仕事をしたいと思っています。

「みやぎの多文化な人」の続き

巻頭インタビュー②

設立以来サポートの会代表として、外国ルーツの子どもの支援に尽力してきた田所希衣子さんにお話を伺いました。

— 設立20周年、おめでとうございます。どのような思いでサポートの会を立ち上げられたのですか。

私はサポートの会を立ち上げる前に、託児つきの日本語教室で教えていました。そこで受講生の子どもたちが学校に入ってから大変な思いをしていることをよく耳にしました。他県では外国ルーツの子どもを対象とした支援が始まっているところもありましたが、当時宮城県にはまだありませんでした。MIAの情報交換会に参加した時に、たまたま同じグループとなった私を含む4人のメンバーで、「早く子どもの支援をやらなきゃ。そうでないと、子どもたちはどんどん大きくなってしまふ」となったのがきっかけでこの活動がスタートしました。

— 20年の活動を振り返ってみていかがですか。

「一人ひとりの子どもにとって、人生は一回きり」という思いで、ずっと活動してきました。当初は、日本人と再婚した母親に呼び寄せられた、いわゆる連れ子が多かったのですが、震災、コロナ禍を経て、子どもの属性や彼らを取り巻く状況は大きく変わって

きています。

現在は、両親ともに外国人で、家庭内の言語が日



本語や英語ではないアジア系の家族が増えていて、そのために学校との意思疎通が十分に図れず、また日本の教育制度についての知識がない場合も多いようです。外国ルーツの子どもは、多くの場合ほとんど日本語が話せない状態で学校に入ります。そこで日本語指導の支援者がつけば、その人を通してまわりを見て、安心して学習ができます。しかし、対応できる人や予算が十分でないという理由で、必要な手当てが受けられない子どもが多くいます。場所によって受けられる支援に差があるというのが現実です。学校や社会が、子どもが自力ではどうにもできない部分を変えていく必要があると考えています。外国ルーツの子どもも自分の力を活かして成長し、活躍できる社会が実現することを願っています。

「みやぎ外国人相談センター」から

Q 母国の不動産を売却する予定です。契約を結ぶ不動産業者から、英語で作成された委任状に署名し、認証を受けてから提出するよう求められました。どうすればよいでしょうか。

A 署名した委任状は日本の公証役場で認証を受ける必要があります。ただし、それだけではなく、法務局認証、外務省認証、提出する国の領事認証も必要な場合があります。この他、弁護士による認証も求められる場合がありますが、みやぎ外国人相談センターでは、協力する弁護士を紹介することができます。

みやぎ外国人相談センター

TEL: 022-275-9990

対応日時：月曜～金曜（午前9時～午後5時）※年末年始及び祝祭日を除く。

対応言語：英語、中国語、韓国語、タガログ語、タイ語、ネパール語、ヒンディー語、ベトナム語、インドネシア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、日本語

MIA日本語講座 2025年4月から始まります！



MIA日本語講座を開講します。身近に日本語を勉強したい外国人がいたら、ぜひご紹介ください。

多言語（日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ウクライナ語）のチラシも用意しています。

クラス	曜日	時間	期間	テキスト	受講料	定員
初級1 初級2	火～金	10:00～12:00	4月8日(火)～7月22日(火)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥27,500 ※テキスト代別	初級1・2 各18人
中級	火・木	13:00～15:00	4月8日(火)～7月22日(火)	『できる日本語 初中級』	¥14,000 ※テキスト代別	18人
夜間初級1 夜間初級2	火	18:30～20:30	4月8日(火)～8月19日(火)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥14,000 ※テキスト代別	初級1・2 各18人

■ 場所：宮城県国際化協会（MIA）

■ 各言語のチラシはこちら：<https://mia-miyagi.jp/2501jc>

■ お申込みはこちら：<https://mia-miyagi.jp/2501japanesecourses>



チラシ



お申込み



未来の東北博覧会記念国際基金助成金 助成事業募集のお知らせ

MIAでは、昭和62年に開催された「未来の東北博覧会」を記念して創設された、未来の東北博覧会記念国際交流基金を活用して、国際交流・協力事業や多文化共生推進事業を行う民間の国際交流団体等へ助成を行っており、現在、令和7年度に助成する事業を募集しています。申請に関するご相談は、申請受付期間に限らずいつでも受け付けていますので、ご連絡ください。

● 助成対象：民間の国際交流団体などが行う下記の事業

①国際交流事業 ②国際協力事業 ③多文化共生推進事業

● 対象団体：宮城県内に主たる事務所を有する非営利団体。なお、団体の構成員の半数以上が宮城県内に住所を有し、活動するもの。

● 助成金額：総事業費（渡航費を除く）のうち20万円までは1/2以内とし、20万円を超える残りの総事業費については2/5以内を限度とし、単位は1万円とする。（ただし、80万円以内）

● 締切：

助成対象事業の実施期間	受付期間
4月1日から6月30日までの間に開始する事業	1月1日から2月10日まで
7月1日から9月30日までの間に開始する事業	4月1日から5月10日まで
10月1日から12月31日までの間に開始する事業	7月1日から8月10日まで
1月1日から3月31日までの間に開始する事業	10月1日から11月10日まで

※詳細は右記URLリンク先をご確認ください URL:https://mia-miyagi.jp/grant_kikin.html

MIA国際理解教育支援事業のご報告@宮城県仙台東高等学校

MIAでは、地域における国際理解教育の推進を目的として、小中高等学校などを対象に県内在住の外国人講師との交流の機会を提供しています。

宮城県仙台東高等学校で行ったプログラムでは、外国人講師3名が母国の紹介をした後に、「平和・共生」をテーマに司会の先生からの質問に答える形でそれぞれの意見や経験を話しました。

3名とも日本社会のマナーを守るように気をつけていますが、最初からそれができた訳ではなかったそうです。バングラデシュ出身のルーマさんは、日本の生活に慣れたことで、今では母国に帰ると電車内の騒々しさや、歩行者が信号を全く守らないことに戸惑うこともあり、異文化に慣れることにはある程度の時間を要することを理解してほしいと話しました。カザフスタン出身のバキトさんからは、「もちろんルールも大切ですが、学校生活でも日本ではルールが多すぎて、大人や規則に守られすぎている部分があると思う。自分で考える力や意見を持つことも重要では?」といった指摘がありました。また、エジプト出身のハゼムさんは今、実際に世界で起こっている紛争問題に目を向けてほしい、平和について考えるためにはまずは何が起きているかを知ることが大切だと生徒たちに語り掛けました。

MIA国際理解教育支援事業では、実施校・団体を募集しています。詳細については、以下をご確認ください。

<https://mia-miyagi.jp/kokurikyoo.html>



それぞれの意見を話す講師たち

多文化なトピック

「NHKやさしいことばニュース」

NHKやさしいことばニュースは、日本に住んでいる外国人や高齢者、子ども、障害者の方たちに向けて、専門的なことばをできるだけ使わずに、わかりやすい表現で最新のニュースを伝えています。災害時には、命と暮らしを守る情報を発信し、安全・安心な生活を支えてくれます。

ニュースや災害時に役立つ情報を音声で聞くことができるほか、ウェブサイトでは文章をルビ付きで読むことができます。※ルビは必要に応じて消すこともできます



■ ラジオ NHKラジオ第1 毎週月曜～金曜 午後6時45分～50分

■ ウェブサイト <https://www3.nhk.or.jp/news/easy/> ※ラジオ放送後1週間は何度でも聞くことができます

栗原市の中学生ケイパー ジーバさん (アフガニスタン出身) が 第46回少年の主張全国大会で最優秀賞受賞



栗原市立栗原南中学校3年、ケイパー ジーバさんが、2024年11月に東京で開催された第46回少年の主張全国大会に北海道・東北ブロック代表として出場し、最優秀賞の内閣総理大臣賞を受賞しました。母国アフガニスタンで人道支援に尽力した医師中村哲氏に感銘を受け医師を志しているジーバさんは、いま日本で学ぶことができる幸せをかみしめながら、自身の努力がゆくゆくはアフガニスタンの女性の希望につながるものと信じていると力強く主張しました。そんなジーバさんに全国大会当日のことや今後の目標についてお話をうかがいました。

「全国大会は、県大会よりも大きな会場でたくさんの聴衆がいたので(※東北大会は録画審査だった)、とても緊張しましたが、自分の思いは伝えられたと感じました。結果はまったく予想していなかっただけに、ただただ驚きました。家族や学校の先生方には感謝しかありません。父や母も喜んでいますが、日本に住んでいるアフガニスタン人からおめでとうと電話が来たりしています。弁論大会を経験して自信も少しついたので、高校ではこれまで以上に積極的に活動し、リーダーシップを身につけられればと思っています。」

実は、ジーバさんが小学校6年生のときに、MIAはインタビューをしています。当時から医師になりたいと言っていました。

▶機関紙「倶楽部MIA」120号(2022年4月号) <https://mia-miyagi.jp/dc/clubmia120.pdf>



みやぎの国際活動団体 (一社)宮城県インドネシア協会 事務総長 大江 修さん

労働力不足を背景とし、2023年に宮城県がインドネシアとの間で「人材確保に関する覚書」を締結したことを受け、当協会は宮城県とインドネシアの相互理解を深め、文化並びに経済の交流促進を目的とし、2024年の5月に設立されました。7月には設立記念総会を開催し、伊藤環境大臣(当時)や、駐日インドネシア大使を始め、当協会の趣旨にご賛同頂く多くの方にご出席頂きました。

9月には県が主催した「みやぎジョブフェアinインドネシア」にも協力しました。11月にはJICA(国際協力機構)と協働で、主に当協会の会員である企業を対象とした「インドネシア人材活用セミナー with JICA」を開催しました。セミナーには商社や漁船にハラルフードを納入する企業など、様々な業種の企業にご参加頂き、「インドネシアの若者の熱心で前向きな姿勢に感心した」という声が多く寄せられました。

宮城県で働くインドネシア人の数は、ここ数年で大きく増加しており、これからもその傾向は続いていくことが見込まれます。今後は県とも協力しながら、経済交流を推進しつつ、県内に在住するインドネシア人が地域に溶け込めるよう、彼らに寄り添ったイベントなどを計画・実施していきたいと考えています。



設立記念総会の様子

サポーターの声 遠藤 淳子さん MIA日本語サポーター

震災前からサポーターの登録をしています。きっかけは外国人の知人から、子どもに日本語を教えてほしいと頼まれたことでした。サポートはすでに終了していますが、交流は今も続いている方もいて、ある方とは毎年サクラボ狩りに行きますし、初めてのコストコ体験も元学習者が声をかけてくれたことがきっかけでした。

現在は、韓国出身のオさんのサポートをしています。オさんの希望で会話を中心とした活動をしています。韓国と日本の違い等、お互いが無理なく話せるテーマを話題にしています。会話以外にもテキストを使って、オさんが日本語のクラスで分からなかったところの復習をすることもあります。

私は、「教える」という形ではなく、サポーターとして学習者を手伝う気持ちで、楽しく活動することを一番大切にしています。学習者から日本語の質問をされて分からないときは、正直に分からないことを伝え、「これは私の宿題ね。」と次回までに必ず調べるようにしています。日本語の難しさを再認識させられることもありますが、サポート活動では普段なら会えない人と出会えることが自身の良い経験になっています。自分が関わった学習者の中で今では就職をして長く日本に住んでいる人もおり、一緒に学んだ日本語がその人の生活に少しでも繋がっていると思うとやりがいを感じます。



賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎協会機関紙「宮城県国際化協会機関紙 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)
- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- ◎入会方法
◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.137

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <https://mia-miyagi.jp>

